

結婚様態の変化にともなう現代女性の意識変化

——中、日、韓における比較研究

徐 春花

ライフスタイルが多様化し、結婚制度が崩れてきていると言われている現在、ヨーロッパ諸国をはじめ、日本でも未婚率が上昇し、単に結婚を遅らせる〈晩婚化〉だけでなく、一生涯結婚しない〈非婚化〉の兆候もある。一昔前までは、ほとんどの人が結婚する社会であったため、独身者に対して「なぜ結婚しないのか」と質問する光景は珍しくなかった。しかし、現在結婚しない人が増え、結婚する人にも「なぜ結婚するのか」と結婚の意味が問われる時代になりつつある。この様な中で、朝鮮民族（韓国人、在日朝鮮人、中国の朝鮮族を含む。以下朝鮮民族と記す）の女性は結婚についてどう認識しているか。

本稿の課題は、中国、日本、韓国における結婚の歴史、現状及び結婚に対する人々の認識の変化を捉え、朝鮮民族の結婚観を考察することである。特に韓国と日本、中国の現状と比べながら、中、日、韓に居住する3世代の朝鮮民族の女性における結婚意識の変化を考察するための緒論としたい。

結婚とは一体どのような意義を持っているのか。これを解明するため、第I部の第1章では結婚の意義を主題として、日本の建国神話から伊耶那岐命と伊耶那美命の結婚神話、朝鮮民族の建国神話である檀君神話、そして『礼記』に見られる中国古代結婚の意義を取り上げた。

第2章では社会制度としての結婚を主題として、結婚とは何かを分析し、韓国や中国の伝統社会における結婚等を取り上げた。

第3章は現代における結婚の意味を題として、現代日本における結婚の特徴、中、日、韓における晩婚化の現状及び晩婚化の理由等を考察した。

第4章は現代韓国の結婚を題として、結婚に関して韓国ではどのような先

行研究が行われているのかを紹介した。

ここまでが第Ⅰ部で、結婚とはどういうものか、どのような変化をしてきたか、どういう現状なのかに関して初歩的な認識がつくのではないだろうか。第Ⅱ部では朝鮮民族における結婚を題として先行研究の資料に、筆者が行なった聞き取り調査の結果を加え、朝鮮民族の結婚について結婚の動機、結婚に対する認識、貞操の意識等に焦点をあてた。

以上考察してきた結果、次のことが明らかになった。

- I. ヨーロッパをはじめ、アジアの各国でも「晩婚化」が進んでおり、日本では最も深刻な社会問題となっているが、中国では晩婚化の憂慮が全くいらない。晩婚化、少子化により人口が年々減少している日本にとって、晩婚化は一刻も早く止めたいものだが、13億余りの人口を所有する中国としてはむしろ晩婚を提唱し、奨励して人口を減少せざるを得ないものである。また、韓国における晩婚の一因として兵役制度の影響が大きいことが明らかになった。
- II. 朝鮮民族の女性にとって「情緒的安定」が最も大きな結婚動機となり、結婚を通して夫から経済的安定を保障してもらおうとした一昔前の女性とは違って、経済的に自立した現代女性は「経済的安定」よりも情緒面の安らぎを求める傾向にある。これは日本の女性も同様である。
- III. 貞操の意識が朝鮮民族と日本人において、顕著な差異がある。婚前純潔に関して8割の日本人が、結婚前の男女でも愛情があるなら、性交渉をしてもかまわないと認識しており、多数の人が婚前純潔にこだわらない。これに比べて、朝鮮民族の場合は昔ながらの貞操概念がかなり強く影響を及ぼし、保守的な考え方をしている人が多い。若い世代が、母や祖母の世代より若干緩くなっているが、それも婚約が約束された場合に限って婚前性交渉を容認するのだ。
- IV. 日本では結婚適齢期の概念がもはや死語になって、適齢期を過ぎた女性に対して高齢出産の心配以外はそれほど問題にならないが、朝鮮民族の社会では、いまだに結婚適齢期というのが本人や周囲に強く意識され、居住する地域に関係なく、皆25～29歳までを最も結婚にふさわしい時期として認識している。

V. 家父長制が廃止された現在でも、朝鮮民族の社会では昔ながらの儒教の教え、「三綱五倫」の道德観念が強く残っていて、彼らの結婚観に強い影響が響いていることが明らかになった。これは朝鮮民族の婚前純潔や結婚適齢期に関する認識等に顕著に出ている。

今回の研究を通じて、長い間母国を離れ、どこの国で生活していても、朝鮮民族は民族のアイデンティティーをもって、民族の伝統や習慣等を代々守り続けていることが分かった。時代や国、住んでいる社会の影響を受け、ある程度、認識が薄くなったり、変化したりすることもある。しかし、中、日、韓3地域に住んでいる朝鮮民族女性は、国別による違いよりは、世代別による考え方の相違が高いことが、今回の調査から明らかになった。

本稿は聞き取り調査の対象が少なかつたため、研究結果に対してその信頼度が低い可能性が高い。これを反省点として残し、今後の研究で改善したいと思う。また、今後の課題としては、大量の朝鮮民族、日本女性、中国女性等の結婚に対する意識調査を実行して、それらを比較検討してみたいと思う。